

のグループを発足させ、指導しておられました。

一九九七年に引退して帰国されましたが、二〇〇三年六月に城北橋聖心教会の献堂五十周年感謝ミサには出席してくださり、お元気なお姿で友人との再会を喜んでおられました。その帰途、ケアンズで国内線に乗り継ぐとき、最初で心臓発作に襲われましたが、信者たちによって熱心な祈りが捧げられましたこともあって、奇跡的に回復しました。最後にアスキュー神父様にお会いしたのは、昨年十月のオーストラリア管区総会の折でした。総会の会場が、神父様の属しておられたダウンランズ学院でしたので、毎日元氣な神父様にお会いしていました。

八月十五日被昇天祭のお昼ころ、シドニーの管区長館から訃報を受け、突然のことで本当に残念で、急に寂しくなりました。神父様が崇敬しておられた聖母の被昇天の祝日に帰天されたのが、せめてもの慰めとなりました。

アスキュー神父は、紳士そのもの

のという方でした。全く謹厳実直、まじめで、はにかみ屋さん。厳しそうですが、ユーモアもありました。辛抱強く話を聞く方。よく祈る方。私たち修道者・司祭の模範でもありました。アスキュー神父様は、日本地区の創立者ブライソン神父様の後を引き継ぎ、日本で福音宣教の基盤を固めてくださいました。また私たちの城北橋聖心教会にとっては初代の主任司祭として大変お世話になりました。心から感謝をお捧げすると共に永遠の安息をお祈りいたします。これからは、どうか神様の御許から私たちを見守ってください。

アスキュー神父様追悼ミサ

二〇〇五・八・二八

